

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:80.

小児臍部造設ストーマ管理の現状と課題

日野岡 蘭子, 平澤 雅敏, 宮城 久之, 石井 大介, 宮本 和
俊

小児臍部造設ストーマ管理の現状と課題

1)旭川医科大学病院 看護部 2)旭川医科大学 外科学講座小児外科

○日野岡蘭子¹⁾ 平澤雅敏²⁾ 宮城久之²⁾ 石井大介²⁾ 宮本和俊²⁾

〈はじめに〉当院小児外科で2000年以降行われてきた小児臍部へのストーマ管理について現状と課題について述べる。当院小児外科では臍部ストーマ造設について、後に他の手術に支障を来さないこと、臍部に感染がないこと、臍の位置が下腹部に寄りすぎていないことを適応としている。臍部へのストーマ造設の利点はストーマサイトマーキングが不要でストーマ閉鎖後の創が残らないため整容性に優れていることである。半面、ストーマ保有時期は成長発達が著しく体型や腹部状態、活動状況も大きく変化することから、状況に応じた管理方法、ケア方法の変更をタイムリーに行う必要があり、ストーマを保有しながら自宅で経過する時期の外来フォローは欠かせない。

〈症例〉2014年1月から2019年6月まで当院で臍部にストーマ造設を行った19例の児のうち、演者が造設当初から閉鎖後まで介入した13例について検討した。在胎週数は平均37.8週、出生体重は平均2819g、ストーマ保有期間は平均228.7日であった。

〈結果〉造設から装具決定までに要した期間は、7-18日、平均11.7日、装具交換回数は平均5.5回で決定していた。入院中に漏れを来した症例は4例、漏れの原因は臍の湿潤、発汗による面板の浮き、ケア側の要因としては洗浄後の不十分な拭き取りがあった。退院後、閉鎖までの期間で漏れを来した症例は11例、漏れの原因は成長による体型や腹壁の変化、うつ伏せや寝返りなどの体動の増加であった。また脱出は3例に認められたが、脱出自体は漏れの要因とはならなかった。同時期に臍部以外に造設した症例4例は、低出生体重児、多発合併などによる管理困難があるため単純比較はできないが、装具決定までに要する期間は平均32.3日で最長は65日であった。近接する膀胱皮膚瘻からの湿潤による漏れを繰り返したことが、装具決定を遅らせた要因であった。

〈結語〉小児臍部ストーマ管理では、貼付面積が大きく確保できるため短期間での装具決定が可能で管理が容易だが、成長発達による腹部脂肪の増加によるストーマの平坦化、しわの増加などで漏れのため装具変更が必要になる症例が多かった。外来受診のタイミングを考慮し漏れを来す前に装具の再評価が必要である。